



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月29日

上場取引所 東

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡本 光司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 長尾 拓昭

四半期報告書提出予定日 平成28年8月9日

TEL 075-841-9385

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	2,976	3.9	344	36.5	339	38.0	218	32.7
28年3月期第1四半期	2,865	2.0	252	63.7	245	65.5	164	96.8

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 231百万円 (24.5%) 28年3月期第1四半期 186百万円 (78.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	10.99	—
28年3月期第1四半期	8.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第1四半期	17,557	6,001	30.8	271.99
28年3月期	18,326	5,813	28.6	263.31

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 5,410百万円 28年3月期 5,237百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,800	△7.2	370	△48.8	340	△51.6	230	△39.0	11.56
通期	11,700	△4.0	480	△31.2	460	△29.5	430	△33.4	21.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期1Q	20,000,000 株	28年3月期	20,000,000 株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	107,180 株	28年3月期	107,180 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期1Q	19,892,820 株	28年3月期1Q	19,896,160 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。
なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、英国のEUからの離脱など海外経済の減速や円高リスク、さらには国内需要の低下懸念など当社を取り巻く経営環境も不透明な状況が続いております。とりわけ、京都地区におけるインバウンドのお客様の動向は、今後とも慎重に判断していかねばならない状況にあります。

このような状況のなか、当社グループは、平成28年4月に、グループの「心のよりどころ」を定めた「経営理念」等を刷新するとともに、経営ビジョンを推進するための中期経営計画を策定し、公表しました。経営ビジョンの中心に据えた「沿線深耕」を通して、地域に「なくてはならない企業」・「なくてはならない交通機関」へと成長するため、当社グループを取り巻くステークホルダーと連携・協働して、さまざまな営業活動に取り組んでいます。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は2,976百万円（前年同期比111百万円、3.9%増）となり、営業利益は344百万円（前年同期比92百万円、36.5%増）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は339百万円（前年同期比93百万円、38.0%増）となり、特別利益および特別損失ならびに法人税等を加減した親会社株主に帰属する四半期純利益は218百万円（前年同期比53百万円、32.7%増）となりました。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

① 運輸業

沿線地域で住む人・働く人・学ぶ人・楽しむ人を増やしていくための地域ブランドの創出と発信、エリア屈指のなくてはならない交通事業への成長、住んでよかった・来てよかったと感じていただける沿線づくり、の推進のため、鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、平成28年4月に開業した「撮影所前駅」の利用促進に努め、北野線沿線の魅力を再発見するための「沿線まちあるきマップ」を沿線の大学と共同で作成し、行政等と連携を図るなど、所期の成績を収めることができました。さらに、平成29年春の開業を目指した当社西院駅と阪急電鉄西院駅との結節改善・バリアフリー化工事は計画通り順調に進捗しており、あわせて、今後の京都市西部エリアの玄関口としての役割強化と利用促進を図るための施策の検討を進めています。また、インバウンド市場の定着に向けた諸施策を実施する一方で、春季繁忙期間でのエージェント会社との企画乗車券の販売を促進するなど、国内のお客様に向けた取り組みも進めています。

バス運送事業におきましては、京都バス(株)では、平成27年11月のICカードの利用開始と平成28年3月の京都市交通局との均一運賃区間の拡大により、お客様の利便性が向上したこともあり、売り上げは増加しました。今後も、更なる「シームレス化」に向けた取り組みを進めてまいります。

京福バス(株)では、福井駅西口広場開設に合わせ、新たな商業施設やイベント広場がオープンするなど、福井市中心市街地の賑わいが高まるなか、100円運賃区間の設定、乗車券発売所の新設やバスロケーションシステムの導入など、多くのお客様にご利用いただけるような取り組みを行っています。さらに、高速バス東京線において、東京新宿の新バスターミナルへの乗り入れを開始するなど、バスの利用促進に向けたさまざまな取り組みに着手しました。

以上の結果、運輸業の営業収益は2,019百万円（前年同期比7百万円、0.4%減）となりましたが、燃料費等の減少などにより、営業利益は172百万円（前年同期比29百万円、20.9%増）となりました。

② 不動産業

不動産分譲事業におきましては、(株)京福コミュニティサービスでは、福井市内の「古市（ふるいち）二丁目」分譲土地1区画および同市内の販売土地1区画を販売しました。

不動産賃貸事業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、ゴールデンウィーク期間中には、「嵯峨大念仏こども狂言」やレゴブロックで作った嵐山駅・電車の展示会と体験会などのお子様向けイベントを実施するなど、同施設の利用促進に向けた取り組みを行いました。なお、「新京福西院ビル（仮称）」の建築は、平成29年春の供用開始に向け計画通り順調に進んでいます。

「BOAT RACE（ボートレース）三国」では、平成28年4月にG1レースを開催し、多くのお客様にご来場いただき、外向発売所「ディアボート三国」やインターネット投票の売り上げも好調に推移しました。なお、インターネット利用による投票傾向が大きく伸びていることから、インターネット情報サイトの充実やキャンペーンの強化に取り組んでいます。

以上の結果、不動産業の営業収益は619百万円（前年同期比120百万円、24.1%増）となり、営業利益は153百万円（前年同期比56百万円、58.9%増）となりました。

③ レジャー・サービス業

飲食業におきましては、「中国料理 吉珍樓（キッチンロウ）」、「八幡家（やわたや）」、「毘福庵（きふくあん）金閣寺みち店」の各店舗において、立地環境に応じた営業活動の推進や、お客様のご要望や季節に応じたメニューの提供などの取り組みを行いました。

物販業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、夏季恒例の「RANDEN EKI-BEER 2016」をオープンさせるなど、駅機能を活用した利用促進の取り組みを進めています。

三国観光ホテルにおきましては、前年の北陸新幹線開業効果の反動懸念があるなか、結婚披露宴の獲得や音楽イベント開催などを通じ、近隣のお客様への積極的な営業に取り組みました。また、ロビーや客室の調度品の見直し、トイレや空調設備の改善工事を実施するとともに、朝食内容を工夫するなど、お客様満足度を向上するための取り組みを進めています。越前松島水族館におきましては、当館ならではの体験型アトラクションの充実に努めたほか、ゴールデンウィーク期間等には夜の水族館を楽しむ特別企画を開催するなどの取り組みを行いました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は436百万円（前年同期比18百万円、4.0%減）となり、営業利益は17百万円（前年同期比5百万円、49.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金や受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ769百万円減少し、17,557百万円となりました。負債は、未払金の支払や借入金の返済などにより、前連結会計年度末に比べ957百万円減少し、11,555百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ188百万円増加し、6,001百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年4月28日の「平成28年3月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,740	1,072
受取手形及び売掛金	1,253	970
販売土地及び建物	59	47
商品及び製品	25	27
原材料及び貯蔵品	40	40
前払費用	41	54
繰延税金資産	109	68
その他	170	469
貸倒引当金	△12	△12
流動資産合計	3,428	2,738
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,319	8,298
機械装置及び運搬具(純額)	1,330	1,274
土地	3,447	3,459
リース資産(純額)	602	620
建設仮勘定	109	120
その他(純額)	449	428
有形固定資産合計	14,259	14,201
無形固定資産		
その他	85	82
無形固定資産合計	85	82
投資その他の資産		
投資有価証券	232	220
その他	317	311
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	548	530
固定資産合計	14,894	14,814
繰延資産		
社債発行費	4	3
繰延資産合計	4	3
資産合計	18,326	17,557

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	48	47
短期借入金	3,502	3,249
1年内償還予定の社債	245	135
リース債務	178	178
未払金	1,241	391
未払法人税等	163	76
未払消費税等	44	141
賞与引当金	244	92
その他	664	976
流動負債合計	6,334	5,289
固定負債		
社債	157	157
長期借入金	3,792	3,936
リース債務	448	465
長期未払金	562	528
繰延税金負債	568	554
役員退職慰労引当金	61	49
退職給付に係る負債	281	270
その他	307	303
固定負債合計	6,178	6,265
負債合計	12,513	11,555
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	282	284
利益剰余金	3,933	4,111
自己株式	△16	△16
株主資本合計	5,199	5,379
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	38	30
その他の包括利益累計額合計	38	30
非支配株主持分	575	591
純資産合計	5,813	6,001
負債純資産合計	18,326	17,557

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
営業収益	2,865	2,976
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	2,581	2,604
販売費及び一般管理費	31	28
営業費合計	2,613	2,632
営業利益	252	344
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	4
雑収入	6	5
営業外収益合計	10	9
営業外費用		
支払利息	15	13
社債発行費償却	1	0
雑支出	0	1
営業外費用合計	16	14
経常利益	245	339
特別利益		
固定資産売却益	2	24
特別利益合計	2	24
特別損失		
固定資産除却損	7	9
減損損失	-	4
投資有価証券評価損	5	-
特別損失合計	13	13
税金等調整前四半期純利益	235	350
法人税、住民税及び事業税	21	78
法人税等調整額	38	30
法人税等合計	60	109
四半期純利益	174	240
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	21
親会社株主に帰属する四半期純利益	164	218

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	174	240
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	△8
その他の包括利益合計	11	△8
四半期包括利益	186	231
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	175	210
非支配株主に係る四半期包括利益	10	21

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	2,022	450	392	2,865	—	2,865
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	5	48	61	115	△115	—
計	2,027	498	454	2,980	△115	2,865
セグメント利益	142	96	11	251	1	252

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	2,014	572	389	2,976	—	2,976
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	4	46	46	98	△98	—
計	2,019	619	436	3,075	△98	2,976
セグメント利益	172	153	17	343	0	344

(注) 1 セグメント利益の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間に「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」を適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。